

月	散布時期		対象病害虫	薬 剤 名	倍数(100ℓ当りの薬量)	安全使用日数と 本剤の使用回数	10a当り 散布量	防除の注意事項等
3月	発 芽 前 (月 日)		―――	展着剤 (アイヤーエース)	1万倍(10mℓ)	―――	250ℓ	【コスカシバ対策】 前年度にコスカシバ対策をしなかった園地では、開花期までにフェニックスフロアブル 200倍液を樹幹部及び主枝に散布する。但し、開花期までに1回。 ■せん孔細菌病菌は、スモモ・ブルーン・ウメ等の全ての核果類に感染する。
			越冬病害虫	石灰硫黄合剤	10倍(10ℓ)	発芽前		
			又は					
			カイガラムシ類 ハダニ類及び越冬卵	トモノールS	50倍(2ℓ)	発芽前		
			縮葉病	チオノックフロアブル	500倍(200mℓ)	収穫7日前までの5回以内		
4月	開 花 前 (月 日)		―――	展着剤 (アビオン-E)	1,000倍(100mℓ)	―――	300ℓ	【せん孔細菌病対策】① せん孔細菌病の越冬菌量が多いと、開花期頃に春型枝病斑の発生が多くなるので開花前防除は重要である。
	下 旬		ナシヒメシンクイ	ナシヒメコン	100本/10a当り	収穫14日前までの3回以内		
5月	落花直後 (上 旬) (月 日)		―――	展着剤 (アビオン-E)	1,000倍(100mℓ)	―――	300ℓ	【落花直後のシンクイムシ類防除】 前年、ナシヒメシンクイの被害が多かった園地では落花直後より防除を行うことが有効です。殺虫剤は、サムコルフロアブル10 5000倍を使用。 【せん孔細菌病対策】② 風・雨を強くうける地帯の樹や樹勢の弱った樹にひどく発病するので、風あたりを少なくし、樹勢の維持につとめる。また、果実被害を防ぐためにも満開30日後までに袋掛けを行う。
			灰星病・うどんこ病・黒星病	アクサーフロアブル	2,000倍(50mℓ)	収穫24時間前までの3回以内		
			せん孔細菌病	マイコシールド	2,000倍(50g)	収穫21日前までの5回以内		
			アブラムシ類	ウララDF	2,000倍(50g)	収穫14日前までの2回以内		
				グリーントップ70	400倍(250g)	―――		
	中 旬 (月 日)		―――	展着剤 (アビオン-E)	1,000倍(100mℓ)	―――	300ℓ	【5月中旬のうどんこ病対策】 もものうどんこ病が果実に感染すると後に毛じ障害発生の原因となる。うどんこ病の防除時期は、落花後から落花20日後が重要である。5月中旬にうどんこ病の防除を行う場合には、コナケシ顆粒水和剤 4000倍 (収穫24時間前までの2回以内) を使用する。
			せん孔細菌病・黒星病・灰星病	チオノックフロアブル	500倍(200mℓ)	収穫7日前までの5回以内		
			せん孔細菌病	マスタピース水和剤	2,000倍(50g)	収穫24時間前まで		
			シンクイムシ類・モモハモグリガ ハマキムシ類	サムコルフロアブル10	5,000倍(20mℓ)	収穫24時間前までの2回以内		
	下 旬 (月 日)		―――	展着剤 (アビオン-E)	1,000倍(100mℓ)	―――	400ℓ	【せん孔細菌病対策】③ せん孔細菌病の春型枝病斑で増殖した菌は、雨滴に混じって分散し、落花期から7月まで長期にわたって感染が続く。 葉の発病は、必ず春型枝病斑の周囲にツボ状に見られる。ツボ状発病が目立つようであれば2次伝染が盛んとなり急激に蔓延するので、枝病斑を見つけ次第健全芽を1つ含めて切除し処分する。枝病斑の処分は生育期間中の最大の対策である。
			せん孔細菌病・黒星病	デランフロアブル	600倍(166mℓ)	収穫7日前までの4回以内		
			せん孔細菌病	マイコシールド	2,000倍(50g)	収穫21日前までの5回以内		
			シンクイムシ類・モモハモグリガ アブラムシ類	アグロスリン水和剤	1,000倍(100g)	収穫24時間前までの5回以内		
6月	上 旬 (月 日)		―――	展着剤 (アビオン-E)	1,000倍(100mℓ)	―――	400ℓ	【せん孔細菌病対策】④ せん孔細菌病の春型枝病斑の発生が多く、初期防除が十分でなかった場合には、果実感染が多くなる。果実感染は小さい時ほど感染しやすく、大きくなるにつれて感染しにくくなる。
			せん孔細菌病・黒星病	チオノックフロアブル	500倍(200mℓ)	収穫7日前までの5回以内		
			せん孔細菌病	マスタピース水和剤	2,000倍(50g)	収穫24時間前まで		
			アブラムシ類・モモハモグリガ カメムシ類 シンクイムシ類 カイガラムシ類	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍(50g)	収穫24時間前までの3回以内		
				グリーントップ70	400倍(250g)	―――		
	中 旬 (月 日)		―――	展着剤 (アビオン-E)	1,000倍(100mℓ)	―――	400ℓ	■6月中旬までにパーマチオン水・スミチオン水を使用すると葉害が発生するので使用しない。
			せん孔細菌病・黒星病 ホモブシス腐敗病	デランフロアブル	600倍(166mℓ)	収穫7日前までの4回以内		
			せん孔細菌病	マイコシールド	2,000倍(50g)	収穫21日前までの5回以内		
			シンクイムシ類・モモハモグリガ ハマキムシ類・アザミウマ類 ハダニ類	ディアナWDG	1万倍(10g)	収穫24時間前までの2回以内		
	下 旬 (月 日)		―――	展着剤 (アビオン-E)	1,000倍(100mℓ)	―――	400ℓ	■7月上旬にせん孔細菌病対策を行う場合には、デランフロアブル600倍を加用する。
			せん孔細菌病・黒星病	チオノックフロアブル	500倍(200mℓ)	収穫7日前までの5回以内		
			せん孔細菌病	マスタピース水和剤	2,000倍(50g)	収穫24時間前まで		
			シンクイムシ類・カメムシ類 モモハモグリガ	テルスターフロアブル	3,000倍(33mℓ)	収穫24時間前までの2回以内		
7月	上 旬 (月 日)		―――	展着剤 (アイヤーエース)	1万倍(10mℓ)	―――	400ℓ	■7月中旬にせん孔細菌病対策を行う場合には、バリダシン液剤5 500倍 (収穫7日前までの4回以内) を加用する。
			灰星病・ホモブシス腐敗病 黒星病	ファンタジスタ顆粒水和剤	3,000倍(33g)	収穫24時間前までの3回以内		
			アブラムシ類・モモハモグリガ シンクイムシ類・カメムシ類	ダントツ水溶剤	2,000倍(50g)	収穫7日前までの3回以内		
				海藻サンバ	2,000倍(50g)	―――		
	中 旬 (月 日)		―――	展着剤 (アイヤーエース)	1万倍(10mℓ)	―――	400ℓ	【せん孔細菌病対策】⑤ 枝への感染は、6月から新梢伸長が停止する7月まで続き発病して夏型枝病斑を形成する。若木など樹勢が旺盛な場合には副枝が多数発生するので8月中旬頃まで感染する。
			灰星病・ホモブシス腐敗病 果実赤点病	ベルコート水和剤	1,000倍(100g)	収穫24時間前までの3回以内		
			シンクイムシ類・モモハモグリガ ハマキムシ類・アザミウマ類 ハダニ類	ディアナWDG	1万倍(10g)	収穫24時間前までの2回以内		
				カネマイトフロアブル	1,000倍(100mℓ)	収穫7日前までの1回		
	下 旬 (月 日)		―――	ツートップ48 (垂リン酸入り肥料)	1,000倍(100mℓ)	―――	400ℓ	【せん孔細菌病対策】⑥ 枝への感染は、6月から新梢伸長が停止する7月まで続き発病して夏型枝病斑を形成する。若木など樹勢が旺盛な場合には副枝が多数発生するので8月中旬頃まで感染する。
			灰星病・ホモブシス腐敗病	ファンタジスタ顆粒水和剤	3,000倍(33g)	収穫24時間前までの3回以内		
			シンクイムシ類・ハマキムシ類・カメムシ類 モモハモグリガ・コスカシバ	テッパン液剤	2,000倍(50mℓ)	収穫24時間前までの2回以内		
				グリーントップ70	400倍(250g)	―――		
8月	上 旬 (月 日)		―――	展着剤 (アイヤーエース)	1万倍(10mℓ)	―――	400ℓ	【せん孔細菌病対策】⑦ 枝への感染は、6月から新梢伸長が停止する7月まで続き発病して夏型枝病斑を形成する。若木など樹勢が旺盛な場合には副枝が多数発生するので8月中旬頃まで感染する。
			灰星病・ホモブシス腐敗病	オンリーワンフロアブル	2,000倍(50mℓ)	収穫24時間前までの3回以内		
			シンクイムシ類・アブラムシ類 モモハモグリガ	ロディー水和剤	1,000倍(100g)	収穫24時間前までの5回以内		
			カイガラムシ類	コルト顆粒水和剤	2,000倍(50g)	収穫24時間前までの3回以内		
	中旬～下旬 (月 日)		―――	展着剤 (アイヤーエース)	1万倍(10mℓ)	―――	400ℓ	【せん孔細菌病対策】⑧ 枝への感染は、6月から新梢伸長が停止する7月まで続き発病して夏型枝病斑を形成する。若木など樹勢が旺盛な場合には副枝が多数発生するので8月中旬頃まで感染する。
			灰星病・ホモブシス腐敗病 果実赤点病	ベルコート水和剤	1,000倍(100g)	収穫24時間前までの3回以内		
			アブラムシ類・モモハモグリガ カメムシ類 シンクイムシ類 カイガラムシ類 コスカシバ ハダニ類	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍(50g)	収穫24時間前までの3回以内		
				マイトコーネフロアブル	1,000倍(100mℓ)	収穫24時間前までの1回		
9月	上 旬 (月 日)		―――	展着剤 (アイヤーエース)	1万倍(10mℓ)	―――	400ℓ	【せん孔細菌病対策】⑨ 枝への感染は、6月から新梢伸長が停止する7月まで続き発病して夏型枝病斑を形成する。若木など樹勢が旺盛な場合には副枝が多数発生するので8月中旬頃まで感染する。
			灰星病・ホモブシス腐敗病 果実赤点病	ナリアWDG	2,000倍(50g)	収穫24時間前までの2回以内		
			シンクイムシ類・モモハモグリガ	エクシレルSE	2,500倍(40mℓ)	収穫24時間前までの3回以内		
	中 旬 (月 日)		―――	展着剤 (アイヤーエース)	1万倍(10mℓ)	―――	400ℓ	【せん孔細菌病対策】⑩ 枝への感染は、6月から新梢伸長が停止する7月まで続き発病して夏型枝病斑を形成する。若木など樹勢が旺盛な場合には副枝が多数発生するので8月中旬頃まで感染する。
			灰星病・ホモブシス腐敗病	アクサーフロアブル	2,000倍(50mℓ)	収穫24時間前までの3回以内		
	下 旬 (月 日)		―――	展着剤 (アビオン-E)	1,000倍(100mℓ)	―――	400ℓ	【せん孔細菌病対策】⑪ 枝への感染は、6月から新梢伸長が停止する7月まで続き発病して夏型枝病斑を形成する。若木など樹勢が旺盛な場合には副枝が多数発生するので8月中旬頃まで感染する。
			せん孔細菌病	コサイド3000	2,000倍(50g)	収穫後から落葉まで		
				クレフノン	100倍(1kg)	―――		
10月	上 旬 (月 日)		―――	展着剤 (アビオン-E)	1,000倍(100mℓ)	―――	400ℓ	【せん孔細菌病対策】⑫ 枝への感染は、6月から新梢伸長が停止する7月まで続き発病して夏型枝病斑を形成する。若木など樹勢が旺盛な場合には副枝が多数発生するので8月中旬頃まで感染する。
			せん孔細菌病	コサイド3000	2,000倍(50g)	収穫後から落葉まで		
	中 旬 (月 日)		―――	展着剤 (アビオン-E)	1,000倍(100mℓ)	―――	400ℓ	【せん孔細菌病対策】⑬ 枝への感染は、6月から新梢伸長が停止する7月まで続き発病して夏型枝病斑を形成する。若木など樹勢が旺盛な場合には副枝が多数発生するので8月中旬頃まで感染する。
			せん孔細菌病	コサイド3000	2,000倍(50g)	収穫後から落葉まで		
				クレフノン	100倍(1kg)	―――		

注意 この防除暦は令和3年12月1日現在の日本国での農業登録内容に基づき作成しました。なお、この防除暦に取り上げた農薬が、その後登録内容に変更が生じた場合は登録変更内容に準じて使用して下さい。万一登録内容変更後にお客様の誤使用となった場合には弊社としては一切責任を負いかねます。農薬に関する最新の登録内容を確認の上使用して下さい。

注意 防除暦に記載されている農薬は気象条件及び散布時間帯により農作物に対し障害を発生させる場合もありますので十分注意して使用して下さい。

注意 防除暦中の農薬の使用回数については、薬剤ごとの使用回数を記載しています。同一成分を含む農薬の総使用回数については農薬のラベル等で確認してから使用して下さい。

注意 適正な農薬使用と、適切な防除が行なわれたかを確認するためにも防除記録を記入して下さい。

山形県農業総合研究センター園芸農業研究所			
時 期	品 種	あかつき	川中島白桃
発 芽 期	平 年	3月22日	3月22日
	前 年	3月19日	3月19日
展 葉 期	平 年	4月19日	4月19日
	前 年	4月 8 日	4月11日
開 花 始	平 年	4月22日	4月23日
	前 年	4月13日	4月15日
満 開 期	平 年	4月26日	4月26日
	前 年	4月19日	4月20日
落 花 期	平 年	5月 4 日	5月 5 日
	前 年	4月30日	5月 2 日
収 獲 盛 期	平 年	8月 7 日	8月30日
	前 年	8月 6 日	8月31日

ももの灰星病・うどんこ病対策剤

アクサー®フロアブル

☐ 2種類の有効成分配合で灰星病・うどんこ病
黒星病・ホモブシス腐敗病を防除。

☐ 2000倍で収穫前日まで使用できます。

着色管理のお手伝いに **白い** 着色シート

タイベック 400WP

○白い反射シートの着色の良さの秘密は、
乱反射と高い紫外線反射率です。

薬 剤 名		使用時期 (収穫前日数)	使用回数
オーシャイン水和剤	2000倍	前日まで	3回以内
スミレックス水和剤	1000倍	3日前まで	3回以内
フルーツセイバー	1500倍	前日まで	3回以内
オリオン水和剤40	1000倍	14日前まで	2回以内
サイアノックス水和剤	1000倍	21日前まで	3回以内
スミチオン水和剤40	1000倍	3日前まで	6回以内
ダーズバンDF	3000倍	14日前まで	5回以内
パーマチオン水和剤	1000倍	7日前まで	6回以内
スターマイトフロアブル	2000倍	前日まで	1回
ダニゲッターフロアブル	2000倍	前日まで	1回

【せん孔細菌病対策】 収穫後
せん孔細菌病の伝染源は、9～10月にかけて落葉痕や皮目から新梢の皮部組織に侵入して潜伏越冬する。特に、秋雨・台風等で降雨が多いと越冬感染量も多くなる。対策として、収穫後にコサイド3000の連続3回防除が効果的である。